

1、最大の課題

現場が疲弊している現実を直視しないで、先生や日教組や教育委員会のせいにして
いるから、義務教育の地盤沈下が止まらない。

その時代のホットな課題を「レッテル付き教育」にして現場に落とすのは限界。

環境省>環境教育、経産省>IT教育、キャリア教育、厚労省>社会保障教育、福祉
ボランティア教育、農水省>食育、消費者庁>消費者教育、さらに国際理解教育&英
語授業数増、道徳教育の拡充、尖閣北方領土防衛教育・・・などなど。

2、問題の本質は「教員の質が全体的に下がり授業の質が保てないこと」 なぜか？

- 1) 50代/3割のベテラン教員が今後10年でいなくなる>ノウハウ継承ができない
- 2) 都市部では20代の教員を増やしているが応募採用倍率大幅ダウンで質が下がる
- 3) 一斉授業の限界（同じ内容を同じ先生が同じスピードでやる授業は理解が遅い子
にはもはや虐待に近い。逆にできる子はお客さんになってしまう傾向が強い）

>>この問題は教員資格の修士化や自治体レベルの研修の充実では解決できない

3、問題解決の方向性

ポイント

- 1) 法律/制度をいじるのではなく授業法自体にサイエンスを持ち込まないと限界
- 2) 先生の当たり外れのない学習の質を担保（離島でも過疎地でも外国でも不登校の
子の自宅でも）のためにはIT教育というよりビデオ教育に発想を転換すべき
- 3) 理解が早い子も遅い子も個別習熟度別に学習しその後に学び合う授業に再設計

手順 ***以下のチャレンジをもう佐賀県武雄市で始めています。

>学校の知識教育部分をビデオオンデマンドによる個別学習に置き換えるプラットフ
ォームを建設。かりに「最高の授業.net」と呼び、教科ごと単元ごとに日本一の先生の
授業を15分単位でウェブに収録（参考：米国MOOCs/カーンアカデミー）。

>>塾の先生も含め分かりやすい授業コンテストが常に起こるようにしAKB方式で一
番視聴率の高い先生にセンターを（ビデオなら免許はいらぬ/一億総先生化）。

>>>算数理科は不得意だが国語は得意な小学校の先生は自ら国語を教え理数は「最
高の授業.net」とともに学べば良い。集合に利点のある実験やディベートは残る。

>>>>徐々に反転授業へ。ビデオで学んで分かった子が分からなかった子に教える
学び合いを促進。教員が人間でなければできないことに集中できるようになる。